中世の信仰の道

長野県立歴史館　村石正行先生

実施日：令和４年５月２日（火）

「この道は極楽浄土へ続く～鎌倉から善光寺へ～」というテーマで講義をしていただいた。阿弥陀如来は極楽浄土へ導いてくれるものであり、平安期にはその対象は貴族や功徳を積んだ人に限定され、庶民・女性・悪業を積んだ人などは対象ではなかった。しかし空也上人は南無阿弥陀仏と唱えれば誰でもが極楽浄土へ行けるとの教えを広め、また末法思想以降それまでの貴族中心のものから庶民・武士も信仰の対象となった。

善光寺は日本最古の阿弥陀如来を安置する寺であり、武士・女性・庶民の信仰を集め、多くの人が参詣した。鎌倉街道を通り善光寺へ向かった虎御前の伝説がこの立科の地にも残っている。また一遍上人は誰しもが等しく極楽浄土へ導かれるようにと善光寺信仰を広めるなか、立科や佐久をも訪れた。今でも長野県内には一遍上人が広めたという「踊念仏」が行われている地域がいくつかある。

【生徒の授業日誌より】

・極楽浄土は貴族しかいけないと思われていたが、一遍上人により庶民でも南無阿弥陀仏と唱え続ければ極楽浄土にいけるのはとてもいいことだと思った。踊念仏はしっかりとしたステップがあり、覚えるのが大変そうだった。

・極楽浄土についてやっているときに、空也上人の口から出ているものが、南無阿弥陀仏と言っていると知って印象に残っています。他にも佐久までの道のりや、なぜ佐久に立ち寄ったのかとか、自分の知らない昔の話を聞くことができたのでよかったです。

・極楽浄土がどんなところかわかった。今年は７年に１度の御開帳という特別なことがあって見に行きたいと思った。空也上人の口から伸びているのが言葉というのには驚いた。

・浄土は、清香らを意味するということを知れました。奈良時代には上田、平安時代には松本、そして今は長野と県庁所在地が転々と変わっていたことを知ってびっくりしました。昔にもコロナのように中国から来た病気があったのを知った。（天然痘）昔の人はもがさと言っていた。

・話を村石先生に聞いてびっくりしたことは中国の銅銭を使って同じ型に銅を流し込んで大量生産をしたのでは？という仮説がちょっとおもしろいなと思いました。あと一遍が初めて踊念仏をした場所が、私が住む地域だったのに踊念仏のことを初めて知りました。